

# 平成31年度 東京都立大泉桜高等学校 学校経営報告

東京都立大泉桜高等学校長

亀崎 隆彦

## 1 今年度の取組みと自己評価

### (1) 教育活動への取組みと自己評価

#### ①学習活動

- \*3年次生の進路決定率等は、昨年の**96.8%**を下回り**95.6%**となり、入学時から基礎学力の充実の取組や3年間を見通したキャリア教育の推進を図ったことにより、生徒・保護者に納得感の高い成果となった。
- \*①「チャイム着席」の実施、②「あいさつ」の励行、③「家庭学習の習慣化」(ア 予習の必要な授業展開 イ 宿題・課題を課す授業 ウ 小テスト・復習テストの実施)以上を教員に共通認識させ、学校として継続して指導していく体制が定着した。
- \*全年次について、学力スタンダードで設定した本校学習目標に基づき、基礎・基本を重視しつつ、1年次生は国語総合、数学Ⅰ、化学基礎、コミュニケーション英語Ⅰ、世界史Aの5科目において、2年次生については、コミュニケーション英語Ⅱ、物理基礎、生物基礎の3科目について、3年次生については学習指導計画を検討し生徒の学力を最大限に伸ばす実践的研究を行った。学力調査テストでは、設定した基準値を全生徒がクリアした。
- \*美術デザイン系では、絵画Ⅱ及びビジュアルデザインⅡを選択した生徒**62名**が、絵画、ビジュアルデザイン作品を制作しての「卒業制作展」を大泉学園ゆめりあギャラリーで実施した。
- \*ICT機器を活用した授業が若手を中心に定着し各クラスの授業で**30%**程度が使用されている。
- \*夏季休業中の講習については、学校内での講習会を充実させることで参加生徒の人数と開校講座数の増加を図った。講習の時間割について夏季休業前に調整し、希望する講座の時間帯の重複を避けるとともに進学向け講座、補習講座に分けたことで、多くの生徒が参加できるようになった。更に、講座の狙いを明確化したことで内容そのものを充実することができた。

#### ②進路指導

- \*本校の学校教育の中軸にキャリア教育を据えて、3年間を見通した進路指導計画を作成し、CGの授業の一層の充実を図る共に、進路の手引きを充実させた。
- \*2年生の学校行事として6月にキャンパス訪問、3月に進路ガイダンスなどを設定することで生徒のもっているキャリア発達意識を刺激する施策を展開した。
- \*13期生の進路決定率は**95.6%**であった。

#### ③生活指導

- \*遅刻指導、頭髮・服装指導を繰り返し徹底した結果、授業を含めて、いじめ、暴力等のない安全で、落ち着いた秩序ある雰囲気を持続することができた。遅刻指導については、前年度比約**11%増**となったが、生活指導部と担任団が協力し、昨年度に続き学校全体の取り組みとして定着した。
- \*校門指導では日常的に、明るい挨拶を心がけて生徒を指導し、来校者からも生徒の対応についてよい評価をいただいた。

#### ④特別活動・部活動

- \*部活動加入率は**86.4%**(年度当初)となり、平成29年度**85%**、30年度**87%**、3年連続して**85%**を維持している。
- \*各学校行事とも、実行委員会が積極的に活動し、これまでの積み重ねの上に新しい試みが行われ、昨年度以上の活力が見られた。体育祭は**474名**の保護者の参観者があり大きな評価を受けた。また、文化祭には、中学生及びその保護者が昨年**1867名**が来校した。
- \*部活動では、美術部員が第30回中央展において「東京都教育委員会賞」と「激励賞」、第20回高校生国際美術展において「優秀賞」と「奨励賞」を受賞した。
- \*防災教育では、年4回の学校における避難訓練で、より実践的な訓練を実施することで生徒、教

員の危機意識の向上を図った。10月の宿泊防災訓練では、練馬区防災課、石神井消防署、PTAと連携した訓練を実施した。12月の都立高校防災サミット及び合同防災キャンプに生徒1名が参加した。防災教育については、生徒が主体的に活動できる人材の育成を図りたい。

#### ⑤健康づくり

- \*交通安全教室やセーフティ教室等を実施し、生徒の安全に配慮した。
- \*特別な支援が必要な生徒に対して生活指導部保健班と特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援及び学校いじめ対策委員会を7回実施した。スクールカウンセラーも同席し、SCや専門医に家庭を結びつける具体策が打ち出された。その結果、治療の開始によって、生徒・保護者の意識が変容するとともに、状況が安定した。

#### ⑥募集・広報活動・地域交流

- \*総務部主導で練馬区や西東京市地域を中心に夏から秋にかけての中学校訪問を実施し、本校の特色を説明する機会を設けた。しかし、実施の徹底を周知する働きかけは希薄であった。塾訪問も含めて、この業務自体の有効性や訪問先への配慮等で疑問点も出されており、積極的な実施には至っていない。やり方を含めた再検討を要する。また東京都教育委員会、塾、外部説明会には**8か所**に参加。今年度は中学校から、3年生対象の説明会の依頼が**1件**（昨年は**4件**）あった。本校での説明会を**9回**、個別相談会は当初の予定通り計**2回**、1月14日から随時個別相談を実施。結果として**2052名**の中学生・保護者の来校や相談があったが、昨年比では**252名**の減少となった。
- \*美術等の体験授業では目標**300人以上**に対して**446名**（含む「入試問題にチャレンジ」）の参加があった。
- \*年間来校者数は、体育祭**474名**、文化祭**1867名**、総数**2341名**となり、微減であった。
- \*「人間と社会」の授業では、近隣19施設で毎週訪問を伴う体験実習を実施した。他、地域清掃の班（2班）、校内でポスターやカレンダー等を作成し相手先に届ける活動班（4班）に分かれて社会貢献活動を行った。

#### ⑦学校経営・組織体制

- \*学校経営は、企画調整会議を中心に適切に、また組織的に行うことができた。
- \*学校評価アンケートで、入学して良かった（生徒）**72%**、入学させて良かった（保護者）**92%**で保護者の満足度は高い値である。
- \*校内美化や環境整備にしっかりと取り組むことができ、地域からの評価も良かった。生活指導部保健担当による生徒会の美化委員会指導の徹底によるごみの分別、持ち帰り運動を実施し予算削減に貢献し経費削減に貢献している。
- \*次年度予算編成では、経営企画室が中心となり学校経営計画に基づき各教科・各分掌の申請を調整し適正に過不足なく予算編成した。

#### ⑧ライフ・ワーク・バランスの実現

- \*ボトムアップによる業務削減・効率化の取組をおこなった。
- \*電子申請の活用など、業務の効率化に向けた取組をおこなった。
- \*年休取得の推奨、休暇を取得しやすい雰囲気づくりを推進した。

## (2) 重点目標への取組みと自己評価

①学習指導・生活指導・・・生徒が誇りを持って学校に通い授業を大切に、部活動・学校行事に主体的、積極的に取り組む姿勢を育てる。

【数値目標】◎年間皆勤者各年次**30名**以上

◎部活動加入率**85%**以上

【結果分析】

- \*今年度の皆勤者は、1年次**28名**、2年次**16名**、3年次**47名**、合計**91名**。  
成績優良者は、1年次**30名**、2年次**42名**、3年次**61名**、合計**133名**となった。
- \*単位制の特徴を活かし、少人数授業や選択科目が充実している。については生徒は**91%**、保護者は**93%**で、満足している傾向がある。
- \*学校は挨拶やマナー、ルールを守ることにきちんと指導している。については生徒は**76%**、

保護者は**86%**の結果がでている。

\*遅刻者は、平成31年度はさらに前年度比**11%**増し、年間で約**1097**回を越えた。  
5年間で**80%**以上の削減に成功した。

②進路指導・・・早い段階での希望進路決定、より高い目標を目指す意欲を育てる。

【数値目標】

◎四年制大学進学率**40%**以上（令和1年度実績**43.9%**、平成30年度実績**40.7%**）

◎国公立美術大学・五美術大学への合格者実績**25**名以上

（令和1年度実績**30**名、平成30年度実績**27**名）

◎看護・福祉・教育系 進学者数 **45**名以上

（令和1年度実績**49**名、平成30年度実績**44**名）

◎文系理系大学・短大の合格者実績**60**名以上

（令和1年度実績**82**名、平成30年度実績**72**名）

◎進路決定率**95%**以上（令和1年度実績**95.6%**、平成30年度実績**99.6%**）

◎大学入試センター試験出願者数**100**名以上

（令和1年度実績**93**名、平成30年度実績**124**名）

【分析結果】

大学入試合格者数の厳格化やセンター試験が利用できる最後の年になり、浪人生の駆け込みと次年度から始まる新入試への不安から現役志向が強まり、これまででない倍率の高騰がみられた。本校でも、指定校推薦での不合格者や、滑り止めの大学に合格できない生徒が多く出た。

昨年同様に比較的学力の高い生徒が、リスクを回避し、推薦や指定校での進学に回った。しかしながら、センター試験利用や補欠合格での繰り上げなどから一般受験も昨年より合格者実績は美術系も文理系も増加した。

外部模試などの結果を見据えて計画的な進路指導が必要であり、校内の学習とあわせて学年、教科、進路などの情報連携が必要であると感じる。

③募集対策活動・・・本校の特色を理解して目的意識をしっかりと持った生徒が多く入学を希望する学校をつくる。

【数値目標】◎R2年度入試の応募倍率を一次募集において、**1.05**倍を超える回復をめざす。（31年度実績一次募集**1.09**倍）

◎体験入学（含む・入試対策講座）を**10**回以上実施し、参加者を**300**名以上にする。

（31年度実績**10**回、**437**名）

◎施設見学会・学校説明会・個別相談会等による来校者数は**250**名を目標とする。

（31年度実績は**1406**名）

◎体育祭、文化祭来校者数**2500**名以上。（平成31年度実績**2306**名）

【結果分析】

\*募集対策は本校の重点課題である。練馬区・西東京市を中心とした中学校・塾訪問推薦・学力直前個別相談会、本校で行う学校説明会の実施と分析の展開結果は、推薦選抜は**2.35**倍（昨年**3.15**倍）、一般入試は**1.09**倍（昨年**1.06**倍）と増加した。

\*体験入学は、**34**講座実施し、参加中学生は**466**名と昨年度より増加。

\*来校者は学校説明会**1406**名、文化祭**1867**名、合計**3273**名となり昨年より**231**人減小した。

④学校評価・・・生徒から見た、学校生活に対する満足度の向上。

【数値目標】◎入学して良かったと感じる割合**89%**（平成30年度**89%**）

◎進路選択に活かされていると感じている割合**85%**（平成30年度**85%**）

【結果分析】

\*多くの保護者は、単位制の特徴を活かした本校の教育活動への満足度が高く、大泉桜高校に入学してよかったと思っている。ルールやマナー等の生活指導も評価が高い。地域住民の評価も向上して

いる。内部的にはかなり良いと判断しているが、学校をもっと多くの中学生に知らせていく必要がある。

## 2 次年度以降の課題と対応策

### (1) 募集・広報活動の徹底

応募倍率については、隔年減少を繰り返す形で、今年も**1.09倍**と非常に厳しい状況となっている。進路実績、生活指導の徹底で学校生活は充実してきていると考えているが、美術、福祉の2枚看板だけでは普通科高校としての募集定員を埋めることはできていない。駅からの距離が遠いというハンディキャップを埋めるだけの普通科高校としての魅力を出していくことが、喫緊の課題である。

HPを活用した情報の発信や、教員による中学校・学習塾への積極的かつ複数回の訪問を徹底させつつ、生徒を積極的に地域の活動に参加させるとともに、中学生やその保護者に、学校・生徒の様子を直接見てもらう機会を増やす等、魅力ある募集・広報活動のさらなる工夫が必要である。

### (2) 単位制を活用した特色ある教育課程の編成

開校して**15年目**となった。美術と福祉を2枚看板とし、今年度からは全校配置となったJETを活用し外国語教育に力を入れることで普通科としての進学実績向上を図ってきた。平成**31**年度は、中堅私大には文系理系を問わず**117名**（在籍**231名**）が合格した。学習成績面では「伸びしろの大きな学校」として指導が定着してきた感がある。センター試験出願者数は**93名**で前年度比**0.75倍**、受験者数**76名**で**45名減**となった。

体育祭、宿泊防災訓練、文化祭等の学校行事では、生徒が今まで以上に主体的に参加するようになった。特に、防災教育を通じた人づくりに力を注ぎ、人としての在り方生き方、思いやりの心を育てる教育に取組んできた。今後も継続して実施し、防災教育が、本校の特色ある学校行事となるよう防災活動を支援する生徒会活動と合わせて充実を図っていく。

### (3) 教員の授業力の向上

次期学習指導要領への対応及び学力向上のために以下の試みを実施した。

- ① 2学期に全教員を対象とした校内研修を行い、本校の学習活動の方針について共有化を図るための発表、意見交換を行った。悉皆の各年次研修を活用し必ず協議会を開催し意見交換をするOJTは定着した。

#### ②平成22年度から継続して実施してきた

○チャイム着席の実施

○あいさつの励行

○家庭学習の習慣化（具体的には、予習の必要な授業展開、宿題・課題を課す授業、小テスト・復習テストの実施に加え、週末課題を課して家庭学習の習慣化を図る。）

は継続して実施し定着を図った。家庭の事情からアルバイトを余儀なくされている生徒の実情を踏まえても、なお家庭学習の習慣化が大きな課題である。

### (4) 第一希望の進路実現を図る進路指導の充実

3年間を見通した進路指導計画を作成し、生徒、保護者の目に見える形での提供を行った。それにより、生徒の進路目標の設定の準備を円滑に行うとともに、具体的な進路希望に沿った講習や補習、推薦などに対応する面接や小論文指導等を、きめ細かく設定し、生徒が意欲と高い目標をもって進路に向けた準備ができるように対応してきた。今後は特に、美術系、福祉系以外の進路希望に対する支援を充実する必要がある。